

国会議員ヨ…………

“ あなたは、歴史の審判に耐えられますか ”

まずもってこの度の東日本大震災により被災されました皆様方、そして、避難生活を余儀なくされておられます皆様方に対して、心よりお見舞い申し上げます。

地震発生から、丁度2ヶ月になります。
警察庁がまとめた震災による死者の数は15,037人、行方不明者の数は9,487人、そして避難生活を送っている人の数は116,591人と言うことです。この度の被災は、震災、津波、原発、計画停電と4重苦です。地震は天災ですが、原発は人災であります。

原発で避難生活を送っておられる方は、我が家が有るにもかかわらず、いつ帰れるのか目処が立っていません。さぞかしやり切れない思いでありますでしょう。

私は、これは宇宙の造創主が人類に発した警鐘だと思えてなりません。人間は、あまりにも我欲を満たすために科学を過信し、自然を破壊し、宇宙に対する畏敬の念を忘れてきました。

しかし、この度の災害では、戦後長らく忘れ去られていた痛みを分ち合って、困難を乗り越ろうという同胞意識が目覚めるきっかけになったと思われま

す。まずはNPO等のボランティア集団が早くから行動を起こしましたし、多くの場面で募金活動がみられました。応募者も、オーナー企業家、タレント、プロスポーツ選手など多岐に渡り、その金額もかつてのものより大きく、単なる連帯感だけでなく、より力になりたいとの意識が伺えます。

原発の現場では、自身が被災の身でありながら、或は被爆の危険にさらされながら復興に当る東電社員や協力会社の作業員、自衛隊員の献身的な救援作業には、心打つものがあります。

震災直後、海外メディアは被災地で示される日本人の冷静さと規律正しさ、助け合いの心を、日本が誇るべきソーシャルキャピタル（社会的資本）としてたたえていました。

そのソーシャルキャピタルは、巨額の復興経費の負担においても大きな役割を果たすことが期待されています。

今後取組むべき課題は山積しています。

これを単なる復興に終わらせないで、日本再生のモデルとすべきです。日本は、震災と原発で世界からの信頼と評価を大きく下落させてしまいました。世界は、今後日本がどのように対処するか色んな意味で注目しています。

復旧、建設、原発保障、そしてエネルギー対策等課題はたくさんありますが、はっきりしていることは、膨大な資金が必要だということです。即時的と中長期的な対応が求められます。

一方、国と地方の借入残は平成 11 年度末で 1,200 兆円超と予想されます。これは家計の金融資産と負債との差額 1,100 兆円を既にオーバーしています。今、日本は色んな意味で「明治政府の改革」に匹敵する改革が求められていると認識すべきであります。

資金手当、日本再生、これを担保するための、法的対応が急がれます。困っているのは被災者の皆さんだけではなくありません。地方も企業もそして国民全員が被害者なのです。今ほど為政者の行動が求められている時はありません。

なのに日本の国会議員の態度はどうでしょう。国民の痛みを政争の具にして、党利党略にうつつを抜かしています。人のやっていることの批判は誰にでも出来ます。真の政治家なら、今ほどやりがいのある時はないと理解するはずです。

坂本竜馬は、徳川幕府から朝廷へ大政奉還させました。今こそ為政者には、党利党略、派閥を離れ、真に国民の為、長期的展望に立つて粉骨砕身、行動することが求められています。

与党、野党、国民にとっては、そんなの関係ない。今は、超党派、国民党を作って歴史に残る一代改革をやってくれる国会議員を望んでいるのです。

後年、歴史的な東日本大震災が語り継がれるにつけ、政治家だけは利己的だったとの謗りを受けることがあってはなりません。

国会議員ヨ、あなたはそのような歴史の審判に耐えられますか。

平成 23 年 5 月 16 日

アイクス税理士法人 代表 飯田 昭夫